

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	木材振興室長 日下淳一	電話番号	0852-22-5156
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	林業・木材産業成長基盤づくり事業（加速化基金を含む）		
目的	(1) 対象	市町村・森林組合などの林業・木材産業の事業者等	
	(2) 意図	間伐及び路網整備、伐採から搬出・利用の一貫した取組による間伐材のフル活用、地域木材・木質バイオマスの利用を一体的に促進する	
事業概要	ひと・まち・しごと創生島根県総合戦略のKPIや新たな農林水産業・農山漁村活性化計画の成果指標達成に向けて、木を「伐って、使って、植えて、育てる」循環型林業を本格軌道に乗せるための更なる条件整備・環境整備が必要である。 このため、間伐実施、作業道整備、木材生産用機械導入、木材加工施設整備など林業・木材産業の基盤整備を支援し、木材需要の拡大とその需要に対する原木増産を図る。		

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	島根県産原木の自給率（KPI）	目標値	38.0	39.5	41.0	42.5	44.0	%
	取組目標値								
	式・定義	県内の木材産業（製材・合板・チップ・燃料等）が調達した原木量に対する県内産原木の供給量の割合	実績値	38.0	39.5	40.3			
	達成率		100.0	100.0	98.3	-	-	%	
2	指標名		目標値						
	取組目標値								
	式・定義		実績値						
	達成率		-	-	-	-	-	%	

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	2,045,295	1,397,024
うち一般財源 (千円)	0	0

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

H21年度からH29年度までの9年間に、間伐実施、作業道整備、木材生産用機械導入、木材加工施設整備などを推進した。  
【主要メニューの実施状況（H21～H28）】  
間伐実施 13,481ha 作業道整備 1,541km 高性能林業機械等導入 79台 木材加工施設整備 43施設

近年、着実に原木生産は増加している。 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29  
314 374 384 407 475 527 608千㎡

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

木材業界の積極的な設備投資により、木材加工施設は近年、着実に整備が進んでいる。  
また、平成27年から、県内2箇所でも木質バイオマス発電所が稼働し、大量の林地残材が燃料用チップとしての利用がされるようになった。  
これらの需要に応えるための作業道開設や高性能林業機械の整備により原木供給体制が強化され、原木生産量は増加した。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」  
木材価格の低迷により、森林所有者が伐採に踏み込めない状況がある  
林業事業者は、更なる原木増産に必要な技術者が十分に確保できない  
今後の木材増産に見合った木材加工施設整備の整備が十分でない
- ②困っている状況が発生している「原因」  
森林所有者は、木材価格の低迷により、投資に見合う収益が得られない。  
林業事業者は、雇用条件や就業環境の面で魅力ある職場となっていない  
木材加工事業者は、将来の木材需要が不透明であることや販路の確保に対する不安から必要な施設整備に取り組みにくい。
- ③原因を解消するための「課題」  
伐採意欲の低下している森林所有者の伐採意欲を喚起する必要がある  
森林所有者の収益確保のため、高性能林業機械等の導入による木材生産費用の低コスト化を進める必要がある。  
林業事業者の就業条件を改善し、魅力ある職場づくりに取り組む必要がある。  
木材加工事業者に対しては、森林資源の成熟、公共施設の木造化の機運の高まり、輸入木材の価格の上昇など、木材産業の活性化にとってチャンスが到来している状況を説明して、さらなる条件整備・環境整備に対する理解を求めるとともに販路拡大を支援する必要がある。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 木材価格の大きな上昇が見込めない中においては、原木の運送経費の支援を行い森林所有者や林業事業者の伐採意欲を喚起する
- 林業事業者に対して、林業・木材産業成長基盤づくり事業等を活用した木材生産費用の低コスト化のための高性能林業機械の導入を働きかける
- 県と業界が一体となって、「島根林業魅力向上プログラム」をつくり、林業事業者の魅力向上対策や新規就業者確保対策を強化し、原木生産に従事する人材を確保していく
- あらゆる機会を通じて、木材加工事業者と意見交換を行い、林業・木材産業成長基盤づくり事業を活用した、将来の事業展開に不可欠な設備への先行投資を働き掛ける
- 販路を拡大するため、展示・商談会への出展により、大消費地の実需者とのマッチングを支援する